

東京都高等学校体育連盟体操男子専門部

令和4年度 専門部総会

期日：令和4年4月1日(金)～15日(金) 専門部総会 書面会議

1. 開会 委員長 鈴木 正憲
2. 挨拶 東京都高等学校体育連盟体操男子専門部 部長 神本 堅二
東京都高等学校体育連盟体操男子専門部 委員長 鈴木 正憲
3. 権限の審査
書面会議の結果を受け報告
4. 協議事項および確認事項
 - (1) 令和3年度行事報告
 - (2) 令和4年度行事予定
 - (3) 令和3年度決算報告
 - (4) 令和4年度予算審議
 - (5) 高体連各種大会について
 - (6) 登録について
5. 情報ソース
 - ・ 高体連会報第39号【体操男子】
 - ・ 2022年度版高等学校男子適用規則
 - ・ 東京都高体連男子変更規則(2022年版)
 - ・ 2022～2024 採点規則主な変更点
 - ・ 東京都高等学校体育連盟男子体操専門部規約
6. その他
 - (1) 審判派遣について
 - (2) 令和4年度主要役員人事について

1. 開会 委員長 鈴木 正憲

2. 挨拶

東京都高等学校体育連盟体操男子専門部 部長 神本 堅二

今年度より、東京都高等学校体育連盟体操男子専門部部長となりました、神本堅二と申します。どうぞよろしくお願い致します。

昨年・一昨年より続く、新型コロナウイルス感染拡大により生活様式が大きく変わり、本専門部としても大会の形式変更や縮小等を余儀なくされ、さまざまな異変に見舞われた一年となりました。しかし、そうした状況においても、数や規模は小さいものの大会の開催ができたことは、加盟校の皆様のお力添えによるものです。改めて、感謝申し上げます。

さて、今年度は「With コロナ」として、各種事業を実施することを前提に、コロナ対策を考える方針となっています。依然として感染者数が少なくなっていないため、大会の開催においては引き続き慎重に運営をして行かなければなりません。その際には皆様にさまざまな形でご協力をお願いすることとなりますが、何卒よろしくお願い申し上げます。

東京都高等学校体育連盟体操男子専門部 委員長 鈴木 正憲

昨年度は新たな試みとしてビデオ審査による大会を行いました。初めての事であり、顧問の先生方におかれましては分からない事も多く大変ご迷惑をお掛け致しましたが、無事すべての大会を開催することが出来ました。

今年度は感染対策をしっかりと行った上で、全大会会場での実施を目指しております。顧問の先生方には何かとお願いする事も多くなってまいります。今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。

3. 権限の審査

別紙「書面決議書（体操男子）」の結果よりご報告申し上げます。

4/15(金)までに下記までメールにてご提出ください。

専門部委員長 鈴木 正憲 m-suzuki@nit-komaba.jp

※今年度よりアドレスが変更致しました。ご注意ください。

4. 競技事項および確認事項

- (1) 令和3年度行事報告…「高体連会報第39号【体操男子】」参照
- (2) 令和4年度行事予定…「2022大会実施要項」参照
- (3) 令和3年度決算報告…「令和3年度決算書」参照
- (4) 令和4年度予算審議…「令和4年度予算案」参照
- (5) 高体連各種大会について

①東京都高体連体操専門部のホームページに大会要項、申込用紙等を掲載しています。ダウンロードしてご使用ください。

②昨年度より、C1の大会申込先は桐朋高等学校・芳本苑になっています。

大会申込はExcel ファイルをメール送信し、大会当日に参加申込書原本を提出となります。各大会運営にあたり、例年審判員の確保に苦勞しています。できるだけ帯同審判員の派遣をお願いします。なお、派遣ができない場合は審判委託費が必要です。

下半期の大会日程・会場は未定です。決まり次第追って連絡いたします。

(6) 登録について

大会に出場するためには、選手登録が必要です。東京都体操協会ホームページの登録についてよく読んで頂き、大会前に必ず登録をして下さい。

審判員も登録が必要です。大会前に Web 登録を済ませ、年度初回の大会（4/30）から審判業務が出来るようにしてください。登録していない場合、審判業務は出来ません。

5. 情報ソース

各資料をよくご確認ください。また、ルールに関しては採点規則（日本体操協会から各自で購入）や日本体操協会 HP 掲載の「情報」等をよくご確認ください。

6. その他

(1) 審判派遣について

関東大会（栃木県開催）へC1より3名、C3より1名を派遣予定です。

(2) 令和4年度主要役員人事について

委員長 鈴木 正憲（日本工業大学駒場高等学校）

副委員長 荻 俊樹（日本大学豊山高等学校）

副委員長 田中 駿（駒澤大学高等学校）

C1 審判部 田中 駿（駒澤大学高等学校）

C1 技術部 平岡 徹（日本体育大学荏原高等学校）

(3) 事務作業軽減のため、ご連絡にはメール・ホームページを使用させていただきます。小まめにメールをご確認くださいようお願い申し上げます。

※「令和4年度東京都高等学校体育連盟体操男子専門部加盟申込書兼学校登録書」に記載のメールアドレスをご確認下さい。

7. 挨拶 副委員長 荻 俊樹



専門部番号—専門部名

3—体操男子専門部

専門部役職（所属学校名）

副部長（日本工業大学駒場高等学校）

名前 鈴木 正憲

今年度の課題（項目のみ記入下さい）

・新型コロナウイルス感染拡大を防止しつつ専門部行事をいかに開催するか

次年度以降の長期的な課題

- ・少人数の役員でいかにスマートに大会運営するか
- ・体操器具および大会会場の確保（急務）
- ・競技人口、加盟校の増加

<個人> 1位	築山 翔馬(相生学院)	78.90 点
2位	前田 憲伸(駒澤大学)	78.45 点
3位	今村健太郎(日体大荏原)	76.20 点
4位	田村 優 (松蔭高校)	74.20 点
5位	村上 秀斗(日体大荏原)	74.15 点
6位	上野 陸斗(日体大荏原)	73.45 点

令和3年度は昨年に引き続き、新型コロナウイルス感染症により混乱の一年でした。

昨年の教訓を活かし、3密を避ける対策の徹底により、ほぼ予定していた行事を行う事が出来ました。そこには役員の努力だけではなく、各校の監督や選手の協力無くしては行えませんでした。この場をお借りして、改めてお礼申し上げます。ありがとうございました。

しかし、東京都は他県に比べると練習時間の確保がままならず、関東大会・インターハイでは例年のような選手の勢いを感じる事が少なかった一年となりました。競技特性上、どうしても練習時間が長く必要な種目なので、選手にとって練習時間の短縮や中止は競技力向上に影響が出たと考えられます。今後は練習に工夫や改善を加えながら来年につながればと思っています。

◇関東予選（新体操）：5/4(火) 於 国士舘大学

<団体> 1位	国士舘高校	2.0 点
<個人> 1位	川嶋 龍登(国士舘高校)	30.225 点
2位	村山 涼 (国士舘高校)	26.400 点
3位	岩城祈一千(国士舘高校)	22.250 点
4位	山田 遥大(国士舘高校)	00.000 点

◇体操競技3年生大会：5/5(水) 映像判定

<団体> 1位	都立府中西高校	140.30 点
2位	錦城高校	139.80 点
<個人> 1位	伊藤 悠貴 (成城高校)	63.65 点
2位	稲垣 直希 (日大豊山)	60.45 点
3位	佐藤 遼 (成城高校)	60.35 点
4位	山内 勇人 (都立府中西)	52.60 点
5位	藤原健太郎 (錦城高校)	52.45 点
6位	比留間圭吾 (錦城高校)	48.65 点

◇都総体兼 IH 予選（新体操）6/20(日)於 国士舘大学

<個人> 1位	山田 遥大 (国士舘高校)	30.075 点
2位	川嶋 龍登 (国士舘高校)	30.025 点
3位	村山 涼 (国士舘高校)	28.700 点
4位	岩城祈一千 (国士舘高校)	22.525 点

令和3年度事業報告

◇専門部総会：書面会議にて実施

◇都総体兼 IH 予選兼関東予選：5/2(日) 於 国士舘大学

<団体> 1位	駒澤大学高校	225.75 点
2位	日体大荏原高校	224.85 点
3位	都立駒場高校	208.25 点
4位	日工大駒場高校	179.80 点
5位	成城高校	156.15 点
6位	日大豊山高校	129.25 点

◇秋季大会兼全国選抜予選：12/19(日)於朝日生命体育館

<個人> 1位	田村 優 (松蔭高校)	74.90 点
2位	今村健太郎 (日体大荏原)	74.70 点
3位	大野 慶 (都立駒場)	74.35 点
4位	村上 秀斗 (日体大荏原)	71.75 点
5位	神野 公汰 (駒澤大学)	70.90 点
6位	野口 翔 (駒澤大学)	68.15 点

※上位2名が全国選拔出場

◇新人大会：12/25(土) 映像判定

<団体>	1位	都立駒場	197.35点
	2位	日工大駒場	186.75点
	3位	成城	178.80点
	4位	日大豊山	169.85点
	5位	都立府中西	144.20点
	6位	錦城	140.35点

<個人>

1年生	1位	米田 圭斗 (都立駒場)	67.35点
	2位	近藤名悠太 (都立駒場)	66.35点
	3位	小川 雅人 (日大豊山)	63.15点
	4位	高野 大地 (成城高校)	61.35点
	5位	中西 諄 (都立府中西)	54.15点
	6位	板橋 博大 (錦城高校)	49.05点

2年生	1位	井上 拓海 (日工大駒場)	66.25点
	2位	高山 季大 (都立駒場)	63.65点
	3位	栗山 柊 (日大豊山)	59.90点
	4位	須賀 祐太 (日工大駒場)	58.95点
	5位	加来 潤樹 (成城高校)	58.50点
	6位	新川 凌也 (成城高校)	58.25点

◇関東大会 (山梨県)

・体操競技：6/5(土)～6(日)

<団体>	駒澤大学	217.65点	6位
	日体大荏原	216.50点	7位
<個人>	山田吏由雅(日体大荏原)	73.90点	15位
	前田 憲伸(駒澤大学)	73.70点	17位
	栗原 優太(駒澤大学)	73.10点	18位
	田村 優 (松蔭高校)	72.25点	27位
	村上 秀斗(日体大荏原)	71.20点	32位
	大野 慶 (都立駒場)	70.50点	37位
	今村健太郎(日体大荏原)	70.30点	38位
	神野 公汰(駒澤大学)	67.15点	49位
	万波 倫也(都立駒場)	67.10点	50位
	上野 陸斗(日体大荏原)	64.75点	57位
	豊田 桜大(駒澤大学)	48.60点	84位

・新体操：5/29(土)～30(日)

<団体>	国士舘高校	6.625点	5位
<個人>	山田 遥大(国士舘高校)	28.700点	2位
	川嶋 龍登(国士舘高校)	26.675点	5位
	村山 涼 (国士舘高校)	26.150点	6位
	岩城折一千(国士舘高校)	18.200点	14位

◇全国総体(新潟)

・体操競技：8/9(月)～11(水)

<団体>	駒澤大学	225.85点	10位
<個人>	築山 翔馬(相生学院)	79.20点	14位
	前田 憲伸(駒澤大学)	77.65点	20位
	板橋 永久(駒澤大学)	75.15点	39位
	今村健太郎(日体大荏原)	74.80点	44位
	栗原 優太(駒澤大学)	70.10点	73位
	豊田 桜大(駒澤大学)	69.50点	75位

<種目別入賞>

築山 翔馬(相生学院)	ゆか	1位
	跳馬	3位
板橋 永久(駒澤大学)	つり輪	5位

・新体操：8/21(土)～22(日)

<個人>	山田 遥大(国士舘高校)	31.400点	8位
<ロープ>	山田 遥大(国士舘高校)	15.350点	13位
<クラブ>	山田 遥大(国士舘高校)	16.050点	6位

◇全国選抜 (熊本)

・体操競技：3/20(日)～21(月)

<出場選手>	前田 憲伸 (駒澤大学)
	田村 優 (松蔭高校)
	今村健太郎 (日体大荏原)

・新体操：3/17(木)～19(土)

<出場選手>	川嶋 龍登 (国士舘高校)
	村山 涼 (国士舘高校)

※本稿執筆が1月のため出場選手名のみ記載しました。
選手の皆様のご活躍を祈念しております。

2P : 24 文字 2 段組でフォーマットしてあります

令和3年度 決算報告書

運営費決算額	事業費決算額	令和元年度総決算
-317,240	319,152	1,912

【令和元年度専門部運営費】

総収入	総支出	総収入-総支出
1,343,874	1,661,114	-317,240

【専門部運営費 収入の部】

項 目	金 額	備 考
専門部登録 体操競技	133,000	7,000×19校
新体操	5,000	5,000×1校
学校加盟費(私立学校)	105,000	7,500×14校
都高体連補助	97,600	
東京都体操協会補助	300,000	
関東大会準備金	700,000	昨年度までの積み立て分
審判講習会	0	
繰越金	3,266	
利息等	8	
合 計	1,343,874	

【専門部運営費 支出の部】

適 用	2021年度金額	2020年度金額
① 分担金	66,100	66,100
② 会議費	34,760	21,452
③ 派遣費	193,714	260,000
④ 通信・記録費	9,560	5,955
⑤ 雑費・その他	1,356,980	702,530
合 計	1,661,114	1,056,037

【専門部運営費 支出内訳】

項 目	内 訳	金 額
① 分担金	高体連私立分担金(2,400円×14校)	33,600
	関東高体連専門部への加盟負担金	30,000
	関東高体連専門部への技術役員派遣負担金	2,500
② 会議費	専門部総会	0
	高体連総会	0
	高体連役員会	34,760
		0
③ 派遣費	関東技術部・全国委員総会派遣	3,000
	全国高校総体役員派遣	20,590
	関東大会役員・審判派遣	168,320
	都研究部会派遣	1,804
	都研究大会派遣	0
		0
		0
		0
④ 通信費	切手・ハガキ・封筒郵送費(関東、全国大会等)	3,770
	ホームページ使用料等	5,790
⑤ その他	大会備品等購入	0
	慶弔費(お花代)	5,000
	雑費(手数料など)	1,980
		0
	関東大会準備金	1,350,000
合計		1,661,114

【令和3年度事業費】

総収入	総支出	事業費決算
763,000	443,848	319,152

【事業費 収入の部】

項目	金額	備考
大会参加費	763,000	審判委託費を含む
計	763,000	

【事業費 支出の部】

適用	2021年度 金額	2020年度 金額
① 体育館使用料	93,310	49,010
② 大会役員費	63,000	41,000
③ 審判謝礼費	172,000	164,000
④ 補助役員費	0	11,000
⑤ 昼食・軽食費	0	0
⑥ 大会運営費・表彰費	75,538	53,768
⑦ 会議費	40,000	25,000
合計	443,848	343,778

【事業費 収入(大会参加費)内訳】

3年生大会		都総体兼IH予選兼関東予選		新人大会(1・2年生大会)		秋季個人大会	
団体2枝×14,000	28,000	団体7枝×35,000	245,000	団体8枝×14,000	112,000	個人8名×4,000	32,000
個人14名×5,000	70,000	個人26名×3,500	91,000	個人31名×5,000	155,000		
審判委託金	0	審判委託金	30,000				
合計	98,000	合計	366,000	合計	267,000	合計	32,000

【事業費 支出(大会運営費)内訳】

	3年生大会 (映像採点)		都総体兼IH予選兼関東予選 (国士館大学)		新人大会(1・2年生大会) (映像採点)		秋季個人大会 (朝日生命体育館)	
①			体育館使用費	43,310			体育館使用費	50,000
②	6,000×2名 1,000×1名	12,000 1,000	6,000×2名 2,000×2名 1,000×3名	12,000 4,000 3,000	6,000×2名 1,000×1名	12,000 1,000	6,000×2名 2,000×3名	12,000 6,000
③	1種2名,2種2名	22,000	1種12名,2種1名,3種2名	85,000	1種5名,2種1名	35,000	1種5名	30,000
④								
⑤								
⑥	表章費 振込手数料 包装用袋 賞品郵送代	22,000 330 200 3,100	振込手数料	220	表彰費 振込手数料 賞状郵送費	26,400 1,140 2,320	表消費 振込手終了	19,448 380
⑦	大会プログラム作成 代表者会議会場費 代表者会議役員費	10,000 0 0	大会プログラム作成 代表者会議会場費 代表者会議役員費	10,000 0 0	大会プログラム作成 代表者会議会場費 代表者会議役員費	10,000 0 0	大会プログラム作成 代表者会議会場費 代表者会議役員費	10,000 0 0
	合計	70,630	合計	157,530	合計	87,860	合計	127,828

※新人大会と同時開催

【大会収支】

3年生大会 (映像採点)	都総体兼IH予選兼関東予選 (国士館大学)	新人大会(1・2年生大会) (映像採点)	秋季個人大会 (朝日生命体育館)
27,370	208,470	179,140	-95,828

会計 古志野 潤哉



監査の結果、諸帳簿、金銭出納記録、証憑書類等、すべて正確に記録処理されていることを証明する。

令和4年3月20日 会計監査 水元 敦



令和4年3月31日

令和4年度 予算 (案)

専門部運営費

【収入の部】

項 目	昨年度実績	内 訳	予 算
専門部登録費	133,000	体操競技	133,000
	5,000	新体操	5,000
学校加盟費	105,000		105,000
都高体連補助	97,600		97,600
関東大会派遣 宿代補助(都体協)	0		0
関東大会準備金	700,000		1,350,000
東京都体操協会補助	300,000		300,000
審判講習会	0		0
繰越金	3,266		1,912
利息等	8		0
計	1,343,874		1,992,512

【支出の部】

項 目	昨年度実績	内 訳	予 算
①分担金	66,100	高体連分担金・関東分担金	70,000
②会議費	34,760	総会・役員会	50,000
③派遣費	193,714	役員・審判派遣(関東・インターハイ・選抜大会)・全高委員総会等	300,000
④通信・記録費	9,560	通信・記録(備品)費・郵送費等	10,000
⑤積立(男子高体連)	1,350,000	関東大会(東京開催)用	1,600,000
⑥その他	6,980	大会備品費・慶弔費・手数料等	14,512
計	1,661,114		2,044,512

事業費

【収入の部】

項 目	昨年度実績	備 考	予 算
3年生大会	98,000	分担金を含む	100,000
東京都総体 兼 IH予選 兼 関東予選※	366,000	分担金を含む	
関東予選※		分担金を含む	150,000
東京都総体 兼 IH予選※		分担金を含む	200,000
新人大会	267,000	分担金を含む	250,000
秋季個人大会	32,000		32,000
計	763,000		732,000

※令和3年度はIH予選兼関東予選、令和4年度はIH予選と関東予選を別日程で実施予定。

【支出の部】

適 用	昨年度実績	備 考	予 算
①大会運営費			
3年生大会	70,630		130,000
都総体 兼 IH予選 兼 関東予選※	154,530		
東京都総体 兼 IH予選※			150,000
関東予選※			150,000
新人大会	87,860		120,000
秋季個人大会	127,828		130,000
計	440,848		680,000

※令和3年度はIH予選兼関東予選、令和4年度はIH予選と関東予選を別日程で実施予定。

令和3年度予算	専門部運営費	事業費
収入の部	1,992,512	732,000
支出の部	2,044,512	680,000
合 計	-52,000	52,000
計	0	

令和4年 3月 31日 高体連体操男子専門部 委員長 鈴木 正 憲



2022 年版高等学校男子適用規則

(2022 年改訂版) 令和 4 年 2 月 13 日

全国高等学校体育連盟体操部

日本体操協会審判委員会男子体操競技審判本部

次に示すもの以外は、2022 年版採点規則（日本体操協会発行）を適用する。

1, 終末技について A 難度・・・+0.10 B 難度・・・+0.20

2, 技の認定と難度の設定について

(1) 下記に示す技は、2022 年版採点規則とは異なる難度の認定および設定をおこなう。ここに示した以外の振動から倒立位になる技は採点規則通りである。

つり輪 ・ 屈腕ほん転逆上がり倒立（屈腕後方車輪倒立）：C 難度（グループ I）

・ 屈腕後ろ振り上がり倒立（屈腕前方車輪倒立）：C 難度（グループ I）

※屈腕の減点およびその他の減点，伸腕の捌きと同一枠

平行棒 ・ 前振りひねり倒立での 45°を超える逸脱：C 難度（グループ I）

※角度減点（0.5）およびその他の減点，倒立位の捌きと同一枠

鉄 棒 ・ 足裏支持回転倒立：A 難度（グループ III）

※角度減点およびその他の減点

(2) 下記の終末技は A 難度（グループ IV）とする。

つり輪，平行棒，鉄棒の前方・後方かかえ込み宙返り下り

3, 禁止技について

難度表に記されているジュニアルールにおける禁止技を示す●印は適用しない。

4, 加点について

あん馬を除く 5 種目において終末技の着地をとめた場合，E 審判によって 0.1 の加点を与える。

5, ゆかの 2 回宙返り技について

ゆかの 2 回宙返り技がない場合，0.1 の ND（ニュートラルディダクション）とする。

6, つり輪の力技に関して

D 難度以上の力静止技（グループ II 及び III）に対して，1 技につき 0.1 の加点を D スコアに行う。

※ただし，大欠点を伴う実施は不認定となり，加点の対象としない。

7, 補足

(1) つり輪，跳馬，平行棒，鉄棒において，1 名の補助者をつけることができる。

(2) 短い演技に対して

短い演技に対して、D 審判は決定点から所定のニュートラルディダクション（ND）を適用する。高校適用において 7 技は ND なし。6 技以下はを適用する。

以上
ND

技数	ニュートラルディダクション（ND）	
	2022 年版採点規則	2022 年版高校男子適用規則
10 技	0	0
9 技	0	0
8 技	0	0
7 技	3.0	0
6 技	4.0	4.0
5 技	5.0	5.0
4 技	6.0	6.0
3 技	7.0	7.0
2 技	8.0	8.0
1 技	9.0	9.0
0 技	10.0	10.0

2022-2024 採点規則 主な変更点

一般条項

- あん馬や跳馬に霧吹き等で水をかけること（国内対应有）大欠点 0.5
-

ゆか

- 演技時間最大 75 秒に。(65 秒と 75 秒に合図。2 秒を超えると -0.1、2 秒を越え 5 秒まで -0.3、5 秒を超えると -0.5)
- 対角線の合計使用回数に制限はないが、同じ対角線の連続使用は 3 回まで認められる。選手は同じ対角線を 3 回続けて使用した場合、その次に床フロアの一辺（サイドライン）を使用して、対角線先のコーナーとは別のコーナーに向かわなければならない。同じ対角線を 3 回を超えて連続使用した場合は、0.3 のニュートラルディダクションとなる。
- アクロバットシリーズなどの前に 2 秒以上停止してはならない。2 秒の計測は選手が立った瞬間に始まり、単純な腕の動きなども停止時間に含まれる。小欠点 -0.1
- ひねりを伴う 1 回宙返り技が直接つながっていても組み合わせ加点は与えられない。（例：「後方伸身宙返り 5/2 ひねり」から「前方宙返り 1 回ひねり」）
- 十字倒立は、頭部が床から手のひらの厚さ以内であることを必要とする。

あん馬

- すべてのショーンとベズゴ系の技は立位から（旋回をしないで）行くと、二段階の格下げとなる。ショーンとベズゴは、両把手での支持から、片腕で 360° 転向し、再び両把手での正面支持で終了する技である。両把手での正面支持で終了しない場合、これらの技は認定されない。
- ロシアン転向技は、終末技を含めて最大 2 回まで認められる。あん馬におけるこの特別な繰り返しは拡大解釈され、2 つ目の馬端馬背ロシアン転向技（終末技を含む）や、2 つ目のあん部馬背ロシアン転向技は、繰り返しとしてみなされる。なお、コンバインに含まれる一把手上のロシアンは、この規定を適用しない。
- 移動を伴うロシアン転向技の使用は最大 2 回まで認められる。
- 移動を伴うロシアン転向技を外向き旋回から開始する場合、最初の 90° 転向は回転角度に含まれない。
- シュピンドル（1 回ひねり）技は、最大 2 回まで認められる。
- ベズゴ系の技は、フロップやコンバイン、倒立技を含め、最大 2 回まで認められる。
- ショーン系の技は、フロップやコンバイン、倒立技を含め、最大 2 回まで認められる。

つり輪

- 器具の高さの変更とそれに伴うマットの使用について

高さ：マット上から 270cm、床面から 290cm

着地は 20cm の着地マットの上に、10cm のソフトマットの使用が必要となる。

- 振動や引き上げからの力静止技において、最終静止姿勢よりも肩や体の位置が上がってはならない。最終静止姿勢からの逸脱が 45° を超える場合は、その価値は認められず、0.5 の減点となる。その後、最終的な静止姿勢がみられた場合はその技は認められる。

例 1：肩角度が 45° を超える高さから持ち込まれたホンマ十字懸垂は、0.5 減点され、静止時間が満たされていれば十字懸垂の B 難度が与えられる。

例 2：肩角度が 45° を超える十字懸垂から中水平支持に引き上げた場合は、0.5 減点され、静止時間が満たされている場合は中水平支持の D 難度が与えられる。

- 中水平支持は、水平な姿勢で体を完全に一直線にし、肩の中央と輪の下部分が一致するようにして実施しなければならない。腕は上半身に触れないように大きく広げる。腕が体に触れると 0.1 の減点であり、腕で体を支えると 0.3 の減点となる。

跳馬

- 選手が (6m) のマットの端を越えて通り過ぎた場合そこにライン減点は存在しない。マットの端から出る前に採点対象となる着地エリアから出た場合は、通常のライン減点が行われる。

- グループの変更について

I. 1 回以上のひねりを伴う 1 回宙返り技

II. 前転とび、前転前方 1 回宙返り、すべての 2 回宙返り技

(グループ I を除く前転とび系の技)

III. 側転とびツカハラ (ひねり)、カサマツ、すべての後方 2 回宙返り技

(グループ I を除く側転とび系の技)

IV. すべてのロンダート踏切の技

- 第 1 局面でロンダート踏切から 1/2 ひねる技を実施した場合、ひねりが不十分で減点される可能性がある。不完全なひねりは減点表に従って通常の減点が行われる。ひねりが 90° を「超えて不足した場合、ユルチェンコ系の技として認定される。

- 30 秒間のウォームアップ中に選手は最大 2 本の跳越を許可される。選手は 30 秒のウォームアップ時間を経過した場合でも、2 本の跳越をする権利がある。

線審は最大 2 本の跳越が守られているか監視する責任を負う。最大 2 本の跳越が守られない場合、最初の跳越から 0.3 のニュートラルディダクションがなされる。

平行棒

○前振り上りは、背中がバーに対して水平になる必要があり、水平に対し 45° までの逸脱は 0.1 の減点、45° を超える逸脱は 0.3 の減点である。

○ひねりを伴う棒下宙返り倒立の求める実施について。

棒下宙返り 1 回ひねり倒立 (テンハイビン: III-108) は、余分な握りかえをせずに直接倒立に持ち込む必要がある。III-107 を含む棒下宙返りひねり倒立は、倒立が完成する前に、最大 1 回の握り替えで実施する必要がある。棒下宙返り倒立が 2 回以上の握り替えで実施される場合、それは棒下宙返り 1/4 ひねり倒立 (III-106) としてみなされる。

鉄棒

○演技開始の振り出しは、最大 3 回のスイングが認められる。3 回を超えたスイングは 0.3 の減点を伴う。

○組み合わせ加点について (CV)

組み合わせ加点については下記のとおりとする。

手放し技 手放し技 加点
C + C 以上 = 0.10

(この逆も可)

D 以上 + D 以上 = 0.20

アドラー系の技 手放し技
D 以上 + D = 0.10

D 以上 + D 以上 = 0.20

注：どちらの技もカウントされる 10 技の中に含まれていなければならない。

○他に記載されていない限り、いかなる握りで技を終了しても、両手で終了する技と同価値で同一番号である。

○ひねりを伴うすべてのエンドー、シュタルダー、ワイラー系の技は、シュタルダーとび 2/3 ひねり系 (III-40, 41) の技を除いて、2 つの技に分割される。

例：エンドー +1 回ひねり大逆手 = B+C

シュタルダー +1/2 ひねり大逆手 = B+B

○閉脚シュタルダーからのリバルコ系やトカチェフ系は認められない。

○トカチェフ系 (ピアッティを含む) およびコバチ系の技は、演技中に最大 2 回まで実施することができる。ただし、それらの手放し技は他の手放し技と直接連続した場合に限り 3 回目の実施が認められる。

例：・コールマン、コバチ～ゲイロード 2

・コールマン～コバチ、カッシーナ

・伸身トカチェフ～トカチェフ、リューキョ

・トカチェフ～ギンガー、伸身トカチェフ、ピアッティ

○大逆手エンドー (III-99) の難度の認定を得るためには、大逆手倒立で開始し、大逆手でバーの真上を越える必要がある。

東京都高体連男子変更規則(2022年版)

東京都高体連男子変更規則(2022年版)を適用する競技会において、当規則を適用する。
当規則に掲載されていない部分に関しては、2022年度版高等学校採点規則に準じて採点される。

技数不足による減点

- 演技内に認められた技数が7技未満であった場合は下記の通り、D1審判が決定点から減点する。

7技	⇒	0.0 (決定点から)
6技	⇒	-1.0 (決定点から)
5技	⇒	-2.0 (決定点から)
4技	⇒	-3.0 (決定点から)
3技	⇒	-4.0 (決定点から)
2技	⇒	-5.0 (決定点から)
1技	⇒	-6.0 (決定点から)

種目特有の要求によるNDの対応

- ニュートラル・ディダクション

ゆか 2回宙返りを実施しなくてもNDの対象にはならない。

あん馬 馬体の3部分を使用しなかった場合のNDは適応しない。

つり輪 振動倒立技が入っていても、NDによる減点は行わない。

難度認定

- 以下の技をa難度（スモール・エー）として0.1の難度点を与える。

ただし、技のグループは満たせない。

ゆか ・前転技群（前転、開脚前転、伸膝前転、倒立前転）1技まで
・後転技群（後転、開脚後転、伸膝後転、後転倒立）1技まで
・側方倒立回転
・ロンダート

あん馬 ・四つ足（左入れ～右入れ～左抜き～右抜き）：逆も可
・2つ目以降の横向き旋回（両把手、馬端、逆馬端でそれぞれ1つの技）
・2つ目の正交差、2つ目の逆交差（左右それぞれ1つの技）

つり輪 ・肩倒立（2秒）

平行棒 ・開脚前拳支持
・腕支持後ろ振り上がり支持
・前振り後方かかえ込み宙返り下り（棒間）
・懸垂前振り後方かかえ込み宙返り下り（棒間）

鉄棒 ・懸垂前振りひねり（水平以下）

- ・懸垂前振り逆上がり
- ・後ろ振り上がり支持
- ・両手を同時に持ち換える技
- ・前方支持回転
- ・後方支持回転
- ・後方足裏支持回転振り出し下り

● 以下の技の難度（価値点）を認定する

あん馬 ・落下後、両足でマットを蹴って直ちに「下向き下り」を実施する。
→難度を認定する。（グループⅣ/A難度）

つり輪 ・ほん転逆上がり肩倒立、後ろ振り上がり肩倒立（グループⅠ/C難度）
E 審判による減点あり

- ・前方かかえ込み宙返り下り（グループⅣ/A難度）
- ・後方かかえ込み宙返り下り（グループⅣ/A難度）

跳馬 ・開脚とび Dスコア 1. 0
・閉脚かかえ込みとび Dスコア 1. 2

平行棒 ・前振りひねり倒立45°未満（グループⅠ/C難度）
E 審判による減点あり

- ・前方かかえ込み宙返り下り（グループⅣ/A難度）
- ・後方かかえ込み宙返り下り（グループⅣ/A難度）

鉄棒 ・け上がり支持（グループⅢ/A難度）
・前方かかえ込み宙返り下り（グループⅣ/A難度）
・後方かかえ込み宙返り下り（グループⅣ/A難度）

高体連適用規則（令和4年度）

1 次に示すものを除き、（公財）日本体操協会男子新体操規則による。

（1）禁止技について

団体競技・個人競技ともに下記の技を禁止する。なお、禁止技を行った場合は、その演技（構成点）を0点とする。（注：いずれも組運動を含む。）

ア 2回宙返り以上

（2）制限技について

後方系の跳躍技からひねりを伴って直接正面支持臥の技は、男子採点規則 第2章 第31条の構成条件の中で使用できる回数を1回限りとする。

上記の制限回数を超えて使用した場合は、その演技（構成点）を0点とする。

（3）同点順位の決定方法について

ア 団体競技

① 構成得点の上位のチーム。

② 上記の条件が全て同点の場合、主任審判員（構成・実施）の合計得点の上位チーム。

③ 上記の条件が全て同点の場合、主任審判員を除く8名の審判員の合計得点の上位チーム。

④ 上記の条件が全て同点の場合、主催団体に一任。

イ 個人競技

① 2種目のうち、最高得点を獲得した者。

② 上記の条件が全て同点の場合、2種目の主任審判員の合計得点の上位者。

③ 上記の条件が全て同点の場合、主任審判員を除く8名の審判員の合計得点の上位者。

④ 上記の条件が全て同点の場合、主催団体に一任。

2 演技中の停電・選手の怪我の処置について

（1）落雷などにより競技場が停電し、伴奏音楽が停止した場合には、審判長の判断により演技を中断してもよい。再演技を行わせる。

~~（2）演技中、選手が怪我をした場合、監督の判断により演技を中止させてもよい。~~

3 成績順位及び表彰について

不慮の事故等で種目の棄権があった場合、種目別選手権の表彰対象とする。

東京都高等学校体育連盟男子体操専門部規約

第1章 名称及び事務所

第1条 本専門部は東京都高等学校体育連盟体操男子専門部と称する。

第2条 本専門部の事務所は部長又は副部長の在任校におく。

第2章 目的

第3条 本専門部は東京都高体連の規約に基づき、関係団体と連携し、高等学校における体操の健全な発展を図ることを目的とする。

第3章 事業

第4条 本専門部は第3条の目的を達成するために次の事業を行う。

- 1、高等学校における体操の指導講習会の開催
- 2、高等学校体操競技会の開催
- 3、関係団体との連絡
- 4、その他目標達成に必要な事項

第4章 組織

第5条 本専門部は東京都高体連規約第6条によって組織する。

第6条 本専門部は都下各高等学校体操部をもって組織する。

第5章 役員

第7条 部長 1名（校長を原則とする）

副部長 若干名

常任委員 若干名

委員 若干名

第8条 部長及び副部長は専門部総会において推挙し、東京都高体連理事会の議を経て会長がこれを委嘱する。

- 1、部長は専門部を代表し、会務を総括する。
- 2、副部長は部長を補佐し、部長事故あるときはその職務を代行する。
- 3、常任委員は委員の互選により教職員より選出する。

4、委員は加盟校体操部顧問（教職員）より選出する。

第9条 役員の任期は2年とする。ただし、重任を妨げない。補欠によって就任した委員は前任者の残任期間を補する。

第6章 会 議

第10条 本専門部に次の会議をおく。

- 1、専門部総会
- 2、常任委員会

第11条 専門部総会は年1回部長が招集し、次の事項について審議する。

- 1、決算の承認および予算に関する事項
- 2、事業に関する事項
- 3、その他の重要な事項

第12条 常任委員会は部長が招集し、委嘱された事項及び緊急な事項について審議し処理する。

第7章 会 計

第13条 本専門部の経費は高体連加盟費（7,500円）及び学校登録費（体操競技7,000円・新体操5,000円）をもってあてる。

第14条 本専門部の予算、決算は専門部総会の議を経て、東京都高体連理事会の承認を得るものとする。

第15条 本専門部の会計年度は東京都高体連規約に準ずる。

第8章 附 記

第16条 本規約は平成11年4月1日より実施する。

第17条 加盟校は傷病見舞金300円を納入する。（平成22年度より廃止）